

令和7年度 野菜類耕種的・物理的防除、発生予察に基づく防除

◇ 野菜共通

JA山形おきたま 野菜振興会

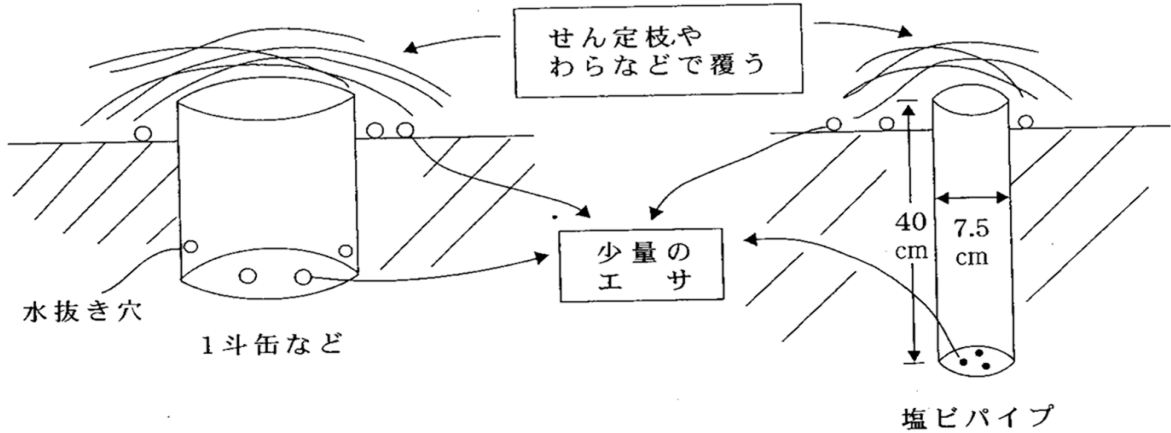
対象病害虫名	防除方法	
病害虫全般	1. ほ場周辺を含め、除草に努める。 2. 連作をしない。	
病害全般	1. 高畦栽培を行うなど、圃場の排水対策を徹底する。 2. 施設栽培では、過湿を防ぐため換気を図る。	
立枯病、青枯病などの土壌病害	1. 土壌を蒸気消毒する。	
	病害虫名	消毒の方法
	立枯病、青枯病等の土壌病害	60℃で30分間又は80℃以上10～15分間均一に行う。
	2. 土壌を太陽熱消毒する。 ハウスでは、7月中旬～8月下旬の夏期高温時を利用して、約1ヶ月間ハウスを密閉して高温状態を保ち土壌中の線虫密度を低下させることができる。 また、雑草の防除や土壌病害の抑制にも効果がみられる。	
	病害虫名	消毒の方法
立枯病、青枯病等の土壌病害	立枯病、青枯病等の土壌病害	①有機物(5～10cmに切断したわら等)10a当たり1～2tと石灰窒素10a当たり100kgを散布して、耕土層によく混ざるようにすき込む。 ②高さ30cm、幅60～70cmの畦を立て、透明のビニール等で地表全面を被覆する。 ③ビニールマルチ下の畦間に灌水し、一時湛水状態にする。 ④ハウスを密閉する。ハウスの破損箇所は補修し、出入り口の密閉度をよくする。 ⑤処理期間は20～30日とする。処理後はハウスを開放し、ビニールを除去する。
ウリ科 ホモプシス 根腐病	1. きゅうりなどのウリ科に発生し、生育期間中に萎れがみられ、被害が進むと枯死する。近年、拡大している土壌病害で台木品種では対応できない。 2. 感染圃場で使用した管理作業機・支柱等の資材・長靴に付着した土壌に含まれる病原菌等によって他の圃場に伝染する。 3. 対策は露地の場合はクロルピクリン剤による土壌消毒・圃場移転、ハウスの場合は太陽熱消毒・土壌還元消毒・クロルピクリン剤による土壌消毒・圃場移転等がある。 4. 最も効果的な対策は、圃場衛生管理の徹底、病原菌の侵入と拡散防止に努めることである。	
ウイルス性病害	1. 発病株は早期に抜取り、適切に処分する。 2. 発病株に触れた手で健全株に触れないようにする。 3. 雑草等に越冬するアブラムシ類(ウイルス保毒)は、ウイルス病(モザイク病)を媒介するため、栽培終了後及び定植前に圃場周辺の除草管理を徹底する。	
菌核病 灰色かび病	1. 過湿にならないようハウス内の換気を図る。 2. 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もってのほか」等】の栽培に適さない。) 3. 発病部は見つけしだい取り除き、圃場外に搬出し、適切に処分する。	
チョウ目害虫	◇ 物理的防除 1. 施設栽培では、出入り口や側面に寒冷紗を張る。 2. 露地栽培では、飛来を防ぐため、寒冷紗による「うきがけ:スポーク支柱の上に被覆」や「べたがけ:作物に直接被覆(パオパオ・ラブシート等)」を行う。 3. チョウ目害虫の卵塊の除去及び幼虫の捕殺を行う。	
	◇ 薬剤防除 1. 交信攪乱剤(性フェロモン剤)による防除 ※剤の設置前にフェロモントラップを設置して発生の有無を確認する。	
アブラムシ類	1. 有翅虫の飛来を抑制するため、シルバーストライプマルチを使用する。 2. 施設栽培では、出入り口や側面に寒冷紗を張る。 3. 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もってのほか」等】の栽培に適さない。)	
コナジラミ類	1. 施設栽培では、出入り口や側面に寒冷紗を張る。 2. 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もってのほか」等】の栽培に適さない。)	
アザミウマ類	◇ 耕種的防除 1. ハウス栽培では、開口部に赤色防虫ネットを設置する。 2. 成虫を絶食状態にすると数日で死滅するので、施設では収穫終了後完全に密閉し、更に作物及び雑草を枯死させる。 3. 露地の発生ほ場では、収穫が終了したら被害植物は適切に処分する。 4. ほ場及びほ場周辺の雑草にも寄生するので、除草を徹底する。 5. 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もってのほか」等】の栽培に適さない。)	
	◇ 発生予察に基づく防除 ほ場内外の作物体付近に粘着トラップを設置し、対象病害虫の発生時期や発生量(飛来・侵入・増殖の状況)を早期に把握し、低密度時に防除を徹底する。 ※アブラムシ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類は黄色、アザミウマ類は青色に誘引される。	
土壌線虫	◇ 耕種的防除(薬剤紹介についてはP9参照) 1. 連作を避ける。 2. 抵抗性品種を作付けする。 3. ネグサレセンチュウの発生しているほ場では、マリーゴールド(フレンチ種またはアフリカントール)を3ヶ月以上栽培(輪作)し、すき込む。 4. キタネグサレセンチュウはさといもとの輪作で密度を低下させることができる。 5. ネコブセンチュウの発生しているほ場では、マリーゴールド(アフリカントール)やクロタラリア、ヘイオーツを3ヶ月以上栽培し、すき込む。 6. 早生のえだまめでダイズシストセンチュウが発生している場合は収穫後にクロタラリアを70日以上栽培し、すき込む。 なお、十分な生育量が確保できるよう、8月中旬までに播種を行う。	
	◇ 物理的防除 上記の立枯病、青枯病等の土壌病害の項「2. 土壌を太陽熱消毒する」参照。	
タネバエ	魚かす、油かす、米ぬか、牛糞、鶏糞、堆肥等、有機物を施用するとタネバエが発生しやすくなる。特に、未熟なものは完熟したものに比べ発生が多くなる。 有機物を施用する場合は、早めに施用してすき込むとともに作物の出芽を促すため碎土を丁寧に行う。	
ネキリムシ類	雑草への産卵を抑えるため、圃場周辺も含め、は種前・定植前から除草を徹底する。	
ナメクジ類 カタツムリ類	◇ 耕種的防除(薬剤紹介についてはP9参照) 1. 湿潤な場所に発生が多いので、ほ場の排水を良くし、ほ場の環境を改善する。 2. 餌となる作物残渣や雑草などをほ場内から除去し、清潔にする。 3. 石灰の不足した酸性土壌に発生が多いので、定植前に石灰資材を施用し、中性からやや酸性の土壌に改良する。 4. 施設栽培では、夏季に太陽熱消毒を行うことによりハウス内のナメクジ類を完全に防除できる。	

◆野鼠の防除

耕種的・物理的防除

秋季(根雪前)、春季、夏季に、

- 野鼠が侵入・定着しないよう、ほ場や周辺の清掃・除草や隠れ場所となるような資材の撤去を行う。
- 野鼠の増殖を抑制するため、ほ場内に餌となる農作物残渣(アスパラガスの茎葉など)を残さない。
- ネズミとり器や粘着板を利用する。この際、鼠は暗所を好むこと、また壁などに沿って移動する習性を利用し、ネズミとり器は壁面に肥料袋などで覆って設置する。また、ネズミとり器を設置後数日は、ネズミとり器の周辺に餌をまき警戒心を与えないように配慮する。
- 簡易なトラップを利用した駆除も周年駆除法として有効。
10a当たり5～6か所に、1斗缶や、塩ビパイプ(直径7.5cm×40cm)等を上部1～2cm残して地中に埋め、上部の穴をせん定枝やわらで広く覆い、時々捕殺を確認する。(下図参照)



ハウス内作物の野鼠対策

- 野鼠が侵入・定着しないよう、ハウス内には隠れ場所となるような資材を置かない。
- ハウスの外縁部は内側、外側とも踏み固めておく。
- 野鼠が侵入した場合は、鼠穴や通路(作物の残渣を引き込んだり糞が見られる場所)に金網製の「ネズミとり器」や「粘着板」を置いて捕殺する。
※ ネズミは暗い場所に落ち着き、壁などに沿って移動する習性があるため、捕獲器は、壁面に肥料袋などで覆っておく。捕獲器の設置後数日は捕獲器周辺に餌をまいて捕獲器への警戒心を与えないように配慮する。発生が多い場所では、周年設置して被害を防ぐことと、ハウス周辺の環境をきれいにし同時に防除対策も行う。

◆薬剤による防除 水田、畑地、果樹園、桑園は下記の薬剤により防除する。

- 農作物の少ない秋季および春季の防除を徹底する。
※ ペットや家畜への二次的な危害を防止するため、家畜施設や住宅地周辺では使用しない。

(1) リン化亜鉛剤

対象害獣	薬剤名	農薬の成分系	使用量	適用場所	使用方法
野ソ	強力ラテミン(劇)	リン化亜鉛	1～2g(15～30粒)／ソ穴1ヶ所	農地	ソ穴に1ヶ所当り1～2g(15～30粒)宛そのままあるいは小袋詰を投入する。
	Z・P 1.00	リン化亜鉛	50～200g/10a	農地	本剤を3～5g紙包み、または、そのままでソ穴に投入するか、10a当り10～40カ所に適宜配置する。

(2) ダイファシン系粒剤

対象害獣	薬剤名	農薬の成分系	使用量	適用場所	使用方法
野ソ	ヤソチオン(劇)	ダイファシン	200～300g/10a	農地	本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰をソ穴に投入するか、野ソの通路に配置する。

(3) クマリン系剤

対象害獣	薬剤名	農薬の成分系	使用量	適用場所	使用方法
野ソ	ラットシードF	クマリン系	5～10g／ソ穴1ヶ所	農地	ソ穴(1ヶ所当り5～10g)をそのまま又は、防水性紙袋として投入する。

◆モグラの防除

耕種的・物理的防除

- 振動を嫌う性質があるので、ほ場のところどころに風車を立て、その振動が地中に伝わるようにする。
- 周囲に深さ1m程度の溝を掘り、ほ場への侵入を防ぐ。
- トンネルの本道に罠を仕掛けて捕殺する。この場合、人のにおいがつかないように素手では持たない。

◆イノシシ対策

イノシシを寄せ付けない環境作りと物理的防除

- ほ場周辺や耕作放棄地の除草を定期的に行い、イノシシの隠れ家となるような場所を作らない。
- イノシシの餌となる農作物残渣(収穫残渣や間引いた株など)をほ場内に残さない。
※ 収穫せずに放置された果樹は、イノシシの格好のエサ場となることから、地域の合意の上で可能な限り伐採する。
- 防護柵(電気柵等)を設置し、イノシシの侵入防止に努める。(電気柵は感電防止の為、人が安易に立ち入らない場所に設置し、危険表示板を複数設置する。)

令和7年度 害虫（ナメクジ類・カタツムリ類）・土壌線虫・雑草の防除について

JA山形おきたま 野菜振興会

◆ナメクジ類・カタツムリ類の防除

薬剤による防除							
	薬剤名	対象病害虫	対象作物名	使用量・希釈倍数	使用時期／適用場所	使用方法	使用回数
1	スラゴ	カタツムリ類、ナメクジ類	カタツムリ類・ナメクジ類が 加害する農作物等	1g～5g/㎡	発生時 温室、ハウス、圃場、花壇	ナメクジ類及びカタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置する。	—
2	ナメクリーン3	ナメクジ類	アスパラガス	1～3kg/10a	収穫前日まで	株元散布	2回以内
		カタツムリ類、ナメクジ類	キャベツ	1～3kg/10a	収穫14日前まで		

◆土壌線虫（ネコブセンチュウ）の防除

各薬剤の使用方法
ハウス内で使用する場合、処理後ハウスを開放し、ガス(薬剤)がハウス内に残らないよう十分注意する。

	薬剤名	対象病害虫	使用時期	対象作物名	使用量・希釈倍数 使用方法	使用方法	使用回数
1	ネマキック粒剤	ネコブセンチュウ	定植前	きゅうり トマト・ミニトマト なす・メロン	15～20kg/10a 全面土壌混和	1. 定植前に散布する。 ※詳しくは各作物毎の使用方法を確認する。 2. 散布後、表層から20cm程度の深さまで混和ムラがないようにていねいに土壌と混和する。 3. 土壌が乾燥している時は、使用しない。	1回
2	ガードホープ液剤（劇）		収穫28日前まで	メロン	4000倍 散布液量2ℓ/㎡ 土壌灌注	1. 処理時にネコブが着生している根は回復しないので、発生初期に使用する。 2. 処理後根系への薬剤の移動を促すため、生育期に使用する場合は早い時期に1㎡当たり5～20Lの水をかん注する。 3. 作物の葉にかからないように散布する。 ※詳しくは各作物毎の使用方法を確認する。	1回
			収穫前日まで	トマト・ミニトマト			

◆雑草の防除

- 耕種的・物理的防除
- は種(定植)前に間隔をあけて2回耕起することにより雑草の発生を軽減できる。
これは1度軽く耕起することで一斉に雑草を発芽させ、これをは種前にもう一度耕起してすきこむ方法である。
 - 水田転作畑では、いったん水田に戻し田畑輪換を行う。
 - 中耕(培土)を行う。
 - 土壌の蒸気消毒や太陽熱消毒を行う。

- 野菜に除草剤を使用する場合の一般的留意事項
- 薬量並びに散布面積は正確に秤量、測定する。
 - 除草剤を薄める水の量は、噴霧機使用の場合は10a当たり100リットルが目安となるが、必ず登録内容を確認して使用する。
 - 薬効は土壌水分との関連が深く、乾燥状態では効果が低い。なお、散布直後の降雨は除草効果を低くするばかりではなく、薬害を起こす危険性もあるので降雨が予想される場合は使用を避ける。
 - 土壌処理剤は土壌処理後3～4週間は土壌を攪拌しない方が効果期間が長い。
 - 散布機具及び容器は専用のものを使用し、使用後は石鹼水で十分洗う。
 - 催芽種子を播きつけた場合は、薬害の恐れがあるので除草剤の使用は避ける。
 - 水田転作畑での使用は、土塊をよく砕き土壌表面を均一にする。
 - ハウス内での除草剤の使用は薬害が発生しやすいので避ける。
 - 除草剤だけでは完全な除草効果は期待できないので、中耕土寄せ・敷ワラ・ポリマルチ等の総合的な対策を行うことが重要である。
 - 散布に使用した器具及び容器を洗った水や残液は、川や池等に流入しないように注意する。
 - はくさい・ほうれんそう・だいこん等では、除草剤を使用した場合は間引いたものを食用にしない。

- カソロン粒剤使用跡地の薬害に注意
- カソロン粒剤を使用した圃地では野菜(すいか・かぼちゃ・きく等)は作付けしない。(葉枯れ、生育阻害、発芽阻害、落葉の恐れがある。)

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 夏秋きゅうり 病害虫防除基準

JA山形おきたま きゅうり振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注意事項
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注		は種後から 2～3葉期まで	○	5回	2ℓ／㎡
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	1g/株 株元処理		育苗期後半	－	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること
		ベリマークSC	28	400株あたり 25mℓ灌注		育苗期 後半～ 定植当日	－	1回	≪使用例≫ 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。
定植時	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和		定植時	－	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること
		オリゼメート粒剤	P2	5g/株 植穴土壌混和		定植時	○	1回	薬害防止のため、軟弱徒長苗には使用しないこと 本剤を処理する場合は植穴の土壌と十分混和すること
	斑点細菌病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注		定植時	○	5回	2ℓ／㎡
生育期	つる枯病	トップジンMペースト ★ ※1	1	原液	塗布	発病初期	●	5回	
	黒星病	ジマンダイセン水和剤	M3	600倍	散布	前日	○	3回	疫病・褐斑病・炭疽病・べと病にも適用あり
		スコア顆粒水和剤	3	2000倍			●	3回	うどんこ病にも適用あり
	べと病	ダコニール1000 ※2	M5	1000倍	散布	前日	○	12回	炭疽病・うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ドーシャスフロアブル ※2	21・M5	1000倍			○	4回	炭疽病・うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ダイナモ顆粒水和剤 ※5	21・27	2500倍			○	3回	
		カーニバル水和剤 ※2	40・M5	1000倍			●	3回	炭疽病・うどんこ病・褐斑病にも適用あり
		プロポーズ顆粒水和剤 ※2 ※3	40・M5	1000倍			●	3回	うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ジャストフィットフロアブル ※3	43・40	5000倍			●	3回	
		ホライズンドライフロアブル ※5	27・11	2500倍			●	3回	
	うどんこ病	ファンベル顆粒水和剤 ※4	M7・11	1000倍	散布	前日	●	3回	褐斑病・菌核病・黒星病・炭疽病にも適用あり
		ラミック顆粒水和剤 ※4	M7・50	1000倍			●	3回	褐斑病にも適用あり
		パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍			●	2回	
	斑点細菌病	ドキリンフロアブル	M1	1000倍	散布	前日	○	5回	炭疽病・べと病にも適用あり
		カスミンボルドー	24・M1	1000倍			●	5回	うどんこ病・べと病にも適用あり
		クプロシールド	M1	1000倍			●	－	べと病にも適用あり
	褐斑病	カンタスドライフロアブル	7	1500倍	散布	前日	●	3回	菌核病にも適用あり 展着剤を加用しない。
		ケンジャフロアブル	7	1500倍			○	4回	うどんこ病・菌核病にも適用あり
	炭疽病	ミギワ10フロアブル	52	1000倍			○	3回	菌核病・つる枯病にも適用あり
		ダイアメリットDF ※4	M7・19	1000倍			●	2回	うどんこ病・菌核病にも適用あり
	褐斑病・炭疽病	ゲッター水和剤 ★ ※1	10・1	1500倍			●	5回	菌核病にも適用あり
		オーソサイド水和剤80	M4	600倍			○	5回	べと病にも適用あり 育苗期に使用した場合、使用回数は4回まで
		ダントツ水溶剤	4A	2000倍			－	3回	カメムシ類の適用あり
	アブラムシ類	トランスフォームフロアブル	4C	2000倍	散布	前日	－	2回	
		コルト顆粒水和剤	9B	4000倍			－	3回	
		ウララDF	29	2000倍			－	3回	
		スターマイトフロアブル	25A	2000倍			－	1回	
	ハダニ類	カネマイトフロアブル	20B	1000倍	散布	前日	－	1回	
		コロマイト乳剤	6	1000倍			－	2回	ハモグリバエ類にも適用あり
		アグリメック (劇)	6	1000倍			－	2回	アザミウマ類にも適用あり
		アザミウマ類・ウリノメイガ	3A	1000倍			－	4回	ハダニ類・アブラムシ類にも適用あり
	アザミウマ類・ウリノメイガ	ハチハチ乳剤 (劇)	21A	1000倍	散布	前日	－	2回	アブラムシ類・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり
		グレーシア乳剤	30	2000倍			－	2回	ハモグリバエ類・ハスモンヨトウ・ハダニ類にも適用あり
		ディアナSC	5	2500倍			－	2回	ハモグリバエ類にも適用あり
		プレオフロアブル	UN	1000倍			－	2回	ハモグリバエ類にも適用あり
	ウリノメイガ・ハモグリバエ類	ベネビアOD	28	2000倍	散布	前日	－	3回	アザミウマ類・アブラムシ類にも適用あり ●単用散布する。
		プレバソンフロアブル5	28	2000倍			－	3回	

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

★栽培期間をとおして、トップジンM剤（ゲッター水和剤、トップジンM水和剤、トップジンMペースト等）とベンレート剤（ニマイバー水和剤、ベンレート水和剤等）はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。

※1 トップジンMペースト、ゲッター水和剤は同一成分（チオファネートメチル）を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※2 ダコニール1000、ドーシャスフロアブル、カーニバル水和剤、プロポーズ顆粒水和剤は同一成分（TPN）を含むため、総使用回数12回以内とする

※3 プロポーズ顆粒水和剤、ジャストフィットフロアブルは同一成分（ベンチアバリカルブイソプロピル）を含むため、総使用回数は3回以内とする

※4 ファンベル顆粒水和剤、ラミック顆粒水和剤、ダイアメリットDFは同一成分（イミノクダジン）を含むため、総使用回数は7回以内とする。

※5 ダイナモ顆粒水和剤、ホライズンドライフロアブルは同一成分（シモキサニル）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予察を実施し、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
ワイドコート	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り10mℓ（1万倍）	薬剤をムラなく拡げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。
アビオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。雨前散布や保護殺菌剤散布に。
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	RACコード	適用雑草名	使用量（散布液量）	使用方法	使用回数	使用時期
クレマート乳剤	3	一年生雑草	10a当り200～400mℓ（水量100～150ℓ）	全面土壌散布	1回	定植前（雑草発生前）
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300～500mℓ（水量100～150ℓ）	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで（雑草生育期 定植前又は畦間処理）

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度　ハウスきゅうり　病害虫防除基準

JA山形おきたま　きゅうり振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
定植前	ネコブセンチュウ	ネマキック粒剤	1B	20kg/10a 全面土壌混和		定植前	－	1回	
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注		は種後から 2～3葉期まで	○	5回	2ℓ／㎡
育苗期 後半	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	1g/株 株元処理		育苗期 後半	－	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内
		ベリマークSC	28	400株あたり25ml 灌注		育苗期後半 ～定植当日	－	1回	≪使用例≫400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。
定植時	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和		定植時	－	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること。
		モスピラン粒剤	4A	1g/株 株元散布			－	1回	
生育期	黒星病	ジマンダイセン水和剤 ※4	M3	600倍	散布	前日	○	3回	疫病・褐斑病・炭疽病・つる枯病・斑点細菌病・べと病にも適用あり
		スコア顆粒水和剤	3	2000倍			●	3回	うどんこ病にも適用あり
	べと病	ダコニール1000 ※2	M5	1000倍	散布	前日	○	12回	うどんこ病・褐斑病・黒星病・炭疽病・灰色かび病にも適用あり
		ダイナモ顆粒水和剤 ※6	21・27	2500倍			○	3回	
		ランマンフロアブル ※3	21	1000倍			●	4回	
		カーニバル水和剤 ※2	40・M5	1000倍			●	3回	うどんこ病・炭疽病・褐斑病にも適用あり
		プロポーズ顆粒水和剤 ※2	40・M5	1000倍			●	3回	うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ホライズンドライフロアブル ※6	27・11	2500倍			●	3回	
									肥切れ・草勢の 衰えた時に発生 しやすい。
	斑点細菌病	クプロシールド	M1	1000倍	散布	—	●	—	べと病にも適用あり
	褐斑病	ケンジャフロアブル	7	1500倍	散布	前日	○	4回	うどんこ病・菌核病・灰色かび病にも適用あり
		カンタスドライフロアブル	7	1500倍			●	3回	菌核病・灰色かび病にも適用あり ※薬害防止のため展着剤を加用しない。
	炭疽病	ミギワ10フロアブル	52	1000倍	散布	前日	○	3回	菌核病・つる枯病・灰色かび病にも適用あり
	褐斑病・炭疽病	ドーシャスフロアブル ※2 ※3	21・M5	1000倍	散布	前日	○	4回	うどんこ病・黒星病・べと病にも適用あり
		ダイアメリットDF ※1	M7・19	1000倍			●	2回	うどんこ病・菌核病・灰色かび病にも適用あり
		ゲッター水和剤 ★ ※5	10・1	1500倍			●	5回	菌核病・灰色かび病にも適用あり
	うどんこ病	フルピカフロアブル	9	2000倍	散布	前日	○	4回	褐斑病・灰色かび病にも適用あり
		アフエットフロアブル	7	2000倍			○	3回	菌核病・灰色かび病にも適用あり
		ラミック顆粒水和剤 ※1	M7・50	1000倍			●	3回	褐斑病・灰色かび病にも適用あり
		テーク水和剤 ※4	3・M3	600倍			●	3回	褐斑病・炭疽病・灰色かび病・べと病にも適用あり
		パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍			●	2回	
	菌核病 灰色かび病	ファンベル顆粒水和剤 ※1	M7・11	1000倍	散布	前日	●	3回	うどんこ病・褐斑病・黒星病・炭疽病にも適用あり
		ピクシオDF	17	2000倍			●	4回	
		ゲッター水和剤 ★ ※5	10・1	1500倍			●	5回	褐斑病・炭疽病にも適用あり
		スミブレンド水和剤 ※5	10・2	1500倍			●	5回	褐斑病にも適用あり
	ハダニ類	スターマイトフロアブル	25A	2000倍	散布	前日	－	1回	
		カネマイトフロアブル	20B	1000倍			－	1回	
		コロマイト乳剤	6	1000倍			－	2回	コナジラミ類にも適用あり
		アグリメック（劇）	6	1000倍			－	2回	アザミウマ類・コナジラミ類にも適用あり
	アブラムシ類 ミカンキイロアザミウマ	アーデント水和剤	3A	1000倍	散布	前日	－	4回	オンシツコナジラミ・ハダニ類にも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	9B	5000倍	散布	前日	－	3回	
		コルト顆粒水和剤	9B	4000倍			－	3回	
		ベストガード水溶剤	4A	1000倍			－	3回	
		ウララDF	29	2000倍			－	3回	
	アザミウマ類 ウリノメイガ	ハチハチ乳剤（劇）	21A	1000倍	散布	前日	－	2回	コナジラミ類・アブラムシ類・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり
		グレーシア乳剤	30	2000倍			－	2回	コナジラミ類・ハモグリバエ類・ハスモンヨトウ・ハダニ類にも適用あり
		ディアナSC	5	2500倍			－	2回	コナジラミ類・ハモグリバエ類にも適用あり
		プレオフロアブル	UN	1000倍			－	2回	ハモグリバエ類にも適用あり
	ウリノメイガ	プレバソンフロアブル5	28	2000倍	散布	前日	－	3回	ハモグリバエ類にも適用あり

（○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。）

★ 栽培期間をとおして、トップジンM剤（ゲッター水和剤、トップジンM水和剤等）とベンレート剤（キャブレート水和剤、ニマイパー水和剤、ベンレート水和剤等）はいずれか一方のみの使用とする。

※1 ダイアメリットDF、ラミック顆粒水和剤、ファンベル顆粒水和剤は同一成分（イミノクタジン）を含むため、総使用回数は7回以内とする。

※2 ダコニール1000、カーニバル水和剤、プロポーズ顆粒水和剤、ドーシャスフロアブルは同一成分（TPN）を含むため、総使用回数12回以内とする。

※3 ランマンフロアブル、ドーシャスフロアブルは同一成分（シアゾファミド）を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※4 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数を3回以内とする。

※5 ゲッター水和剤、スミブレンド水和剤は同一成分（ジエトフェンカルブ）を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※6 ダイナモ顆粒水和剤、ホライズンドライフロアブルは同一成分（シモキサニル）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予察を実施し、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
ワイドコート	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り10mℓ（1万倍）	薬剤をムラなく拡げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	RACコード	適用雑草名	使用量（散布液量）	使用方法	使用回数	使用時期
クレマート乳剤	3	一年生雑草	10a当り200～400mℓ（水量100～150ℓ）	全面土壌散布	1回	定植前（雑草発生前）
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300～500mℓ（水量100～150ℓ）	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで（雑草生育期：定植前又は畦間処理）

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度　ハウス大玉トマト　病害虫防除基準

JA山形おきたま　トマト振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注		は種後から 2～3葉期まで	○	5 回	2ℓ／㎡
	アザミウマ類	※ 生育期『オオタバコガ・トマトサビダニ・アザミウマ類・ アブラムシ類・コナジラミ類』防除薬剤欄をご参照下さい。							黄化えそ病 等 ウイルス病対策として実施する。
育苗期 後半	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 トマトキバガ	ベリマークSC	28	400株あたり 25mℓ灌注		育苗期後半 ～定植当日	－	1 回	≪使用例≫ 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。
定植前	土壌線虫	※ 9ページ『土壌線虫』防除欄をご参照下さい。							
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	4 A	2g/株 植穴処理土壌混和		定植時	－	1 回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 マルハナバチ利用の場合は使用しない。
生育期	疫 病	ランマンフロアブル	21	1000倍	散布	前日	●	4 回	
		ザンプロDMフロアブル	40 ・ 45	1500倍			●	3 回	
	葉かび病 すすかび病	ダコニール1000 ※1	M5	1000倍	散布	前日	○	4 回	うどんこ病・疫病・灰色かび病にも適用あり
		カナメフロアブル(劇)	7	4000倍			○	4 回	うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		アフエットフロアブル	7	2000倍			○	3 回	うどんこ病・灰色かびにも適用あり
		アミスターオブティフロアブル ※1	11 ・ M5	1000倍			●	4 回	疫病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		ブリザード水和剤 ※1	27 ・ M5	1200倍			●	3 回	疫病にも適用あり
		シグナムWDG	11 ・ 7	2000倍			●	2 回	うどんこ病・灰色かび病にも適用あり
	うどんこ病	ベルクートフロアブル ※3	M7	2000倍	散布	前日	○	3 回	すすかび病・灰色かび病・葉かび病にも適用あり
		ファンベル顆粒水和剤 ※2 ※3	11 ・ M7	1000倍			●	3 回	灰色かび病・葉かび病・すすかび病にも適用あり
		パンチョTF顆粒水和剤	U6 ・ 3	2000倍			●	2 回	
	灰色かび病	フルピカフロアブル	9	2000倍	散布	前日	○	4 回	
		ピクシオDF	17	2000倍			●	4 回	
		ファンタジスタ顆粒水和剤 ※2	11	2000倍			●	3 回	すすかび病・葉かび病・斑点病にも適用あり
		ゲッター水和剤 ★	1 ・ 10	1000倍			●	5 回	葉かび病にも適用あり
	オオタバコガ トマトサビダニ ミカンキイロアザミウマ	アニキ乳剤	6	2000倍	散布	前日	－	3 回	コナジラミ類・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類にも適用あり
		コテツフロアブル(劇)	13	2000倍			－	3 回	ナミハダニ・トマトキバガにも適用あり
		マッチ乳剤	15	2000倍			－	4 回	コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ(3000倍)・ハモグリ バエ類(1000倍)にも適用あり
	オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍	散布	前日	－	2 回	ハスモンヨトウ・トマトキバガにも適用あり
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5	5000倍	散布	前日	－	2 回	オオタバコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	トランスフォームフロアブル	4 C	2000倍	散布	前日	－	2 回	トマトサビダニにも適用あり
		ウララDF	29	2000倍			－	3 回	ミカンキイロアザミウマにも適用あり
		コルト顆粒水和剤	9 B	4000倍			－	3 回	
		チェス顆粒水和剤	9 B	5000倍			－	3 回	
	着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	トマトトーン	－	20℃以上 100倍 20℃以下 50倍 散布	1 花房で3 ～ 5 花位 開花した時期 1 花房あたり 1 回				
	空洞果防止	ジベレリン液剤、粉末	－	10ppm 1花房あたり5mℓ	開花時花房散布 (1花房あたり1回)				トマトトーンと併用する ※「ジベレリン錠剤」は登録が無いため、使用しないこと。

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

★ 栽培期間をとおして、トップジンM剤（ゲッター水和剤、トップジンM剤、トップジンMゾル等）とベンレート剤（キャプレート水和剤、ニマイパー水和剤、ベンレート水和剤等）はいずれか一方のみの使用とする。

※ 1 ダコニール1000、アミスターオブティフロアブル、ブリザード水和剤は同一成分（TPN）を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※ 2 ファンベル顆粒水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤は同一成分（ピリベンカルブ）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※ 3 ファンベル顆粒水和剤、ベルクートフロアブルは同一成分（イミノクタジン）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※ マルハナバチを使用する場合は、農薬散布後の安全日数クリアを確認してからハウス内に放し飼いする。

※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生を予察して、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使 用 量	説 明
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	RACコード	適用雑草名	使用量（散布液量）	使用方法	使用回数	使用時期
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	3 回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 ミニトマト 病害虫防除基準

JA山形おきたま トマト振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注意事項
育苗期	苗立枯病	バンタック水和剤75	7	1000倍 3ℓ/㎡土壌灌注	は種時～ 子葉展開時	○	1回	
	アザミウマ類	※ 生育期『オオタバコガ・トマトサビダニ・アザミウマ類・ アブラムシ類・コナジラミ類』防除薬剤欄をご参照下さい。						
育苗期 後半	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 トマトキバガ	ベリマークSC	28	400株あたり 25mℓ灌注	育苗期後半 ～定植当日	－	1回	≪使用例≫ 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。
定植前	土壌線虫	※ 9ページ『土壌線虫』防除欄をご参照下さい。						
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	－	1回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 マルハナバチ利用の場合は使用しない。
		モスピラン粒剤	4A	1g/株 植穴土壌混和		－	1回	
生育期	疫病	ホライズンドライフロアブル	27・11	1500倍	散布	前日	● 3回	葉かび病(2500倍)にも適用あり
		ランマンフロアブル	21	1000倍			● 4回	
	葉かび病 すすかび病	ベルコートフロアブル	M7	4000倍	散布	前日	○ 2回	うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		ダコニール1000 ※3	M5	1000倍			○ 2回	疫病・うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		アミスターオプティフロアブル ※3	11・M5	1000倍			● 2回	疫病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		トリフミン水和剤 ※1	3	3000倍			● 5回	
		シグナムWDG ※2	11・7	2000倍			● 2回	うどんこ病・灰色かび病にも適用あり
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11	3000倍			● 3回	灰色かび病・斑点病にも適用あり
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 ※1	U6・3	2000倍	散布	前日	● 2回	
	灰色かび病	アフエットフロアブル	7	2000倍	散布	前日	○ 3回	うどんこ病・葉かび病・すすかび病・斑点病にも適用あり
		フルピカフロアブル	9	2000倍			○ 4回	
		カンタスドライフロアブル ※2	7	1500倍			○ 3回	葉かび病にも適用あり 薬害防止のため展着剤を加用しない
		ピクシオDF	17	2000倍			● 4回	
	斑点病	ロブラール水和剤	2	1000倍	散布	前日	● 3回	灰色かび病にも適用あり
	オオタバコガ トマトサビダニ ミカンキイロアザミウマ	アニキ乳剤	6	2000倍	散布	前日	－ 3回	コナジラミ類・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類にも適用あり
		コテツフロアブル（劇）	13	2000倍			－ 3回	ナミハダニ・トマトキバガにも適用あり
		マッチ乳剤	15	2000倍			－ 2回	コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ(3000倍)にも適用あり
	オオタバコガ トマトキバガ	フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍	散布	前日	－ 2回	ハスモンヨトウにも適用あり
		グレーシア乳剤	30	2000倍			－ 2回	コナジラミ類・トマトサビダニ・アザミウマ類・ハモグリバエ類 ハスモンヨトウにも適用あり
		ディアナSC	5	2500倍			－ 2回	コナジラミ類・アザミウマ類・ハモグリバエ類・ハスモンヨトウにも 適用あり
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5	5000倍	散布	前日	－ 2回	オオタバコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
		ファインセーブフロアブル（劇）	34	1000倍			－ 3回	トマトサビダニにも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤	4A	2000倍	散布	前日	－ 3回	ハモグリバエ類にも適用あり
		トランスフォームフロアブル	4C	2000倍			－ 2回	トマトサビダニにも適用あり
		チェス顆粒水和剤	9B	5000倍			－ 3回	
		ウララDF	29	2000倍			－ 3回	ミカンキイロアザミウマにも適用あり
	着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	トマトーン	—	20℃以上 20℃以下	100倍 50倍 散布	開花前3日～ 開花後3日位 1花につき1回		

（○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。）

- ※1 トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一成分（トリフルミゾール）を含むため、総使用回数は5回以内とする。
- ※2 シグナムWDG、カンタスドライフロアブルは同一成分（ボスカリド）を含むため、総使用回数は3回以内とする。
- ※3 ダコニール1000、アミスターオプティフロアブルは同一成分（TPN）を含むため、総使用回数は2回以内とする。
- ※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
- ※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100㎖	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	RACコード	適用雑草名	使用量（散布液量）	使用方法	使用回数	使用時期
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300～500㎖ （水量100～150ℓ）	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで（雑草生育期定植前又は畦間処理）

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 ハウスメロン 病害虫防除基準

JA山形おきたま メロン振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	R A Cコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
床土準備	苗立枯病・黒点根腐病・つる割病 センチュウ類・ネキリムシ類・一年生 雑草	クロールピクリン（劇）	8B	1穴当り3～5ml 土壌くん蒸		播種前 床土 1回	○	1回	圃場は30cmを目処に丁寧に耕耘し、土壌の通気をよくする。 土壌消毒機にて土壌深度15～20cmに千鳥状に所定量を注入し、その後ホリエチレン、ビニール等で被覆する。
ハウス準備	黒点根腐病・つる割病	ガスタード微粒剤（劇）	8F	30kg/10a 土壌混和		定植 2 1日前	○	1回	土壌消毒は土壌を耕起整地した後、本剤の所定量を均一に散布して深さ15～25cmに土壌と十分混和し、7～14日間ビニール等で被覆する。2回以上耕起し、ガス抜きを行う。散布後21日以上経てから作付けする。
	ネコブセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	1B	20kg/10a 全面土壌混和		定植前	－	1回	
育苗期	斑点細菌病 べと病	ジマンダイセン水和剤 ※2	M3	600倍	散布	7 日前	○	5回	
	アブラムシ類	マラソン乳剤	1B	2000倍	散布	前日	－	3回	ハダニ類、ウリハムシ(1000倍)にも適用あり。
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ベストガード粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和		定植時	－	1回	※処理の際、規程薬量をきちんと計量し処理する。
活着後	つる枯病・べと病 うどんこ病	ダコニール1000 ※1	M5	1000倍 700倍	散布	3 日前	○	5回	「ダコニール1000」は連用すると茎葉が硬化するため注意する。
	つる枯病 菌核病	ロブラール水和剤	2	1000倍		前日	○	4回	
	アブラムシ類 ハダニ類	モベントフロアブル	23	2000倍		前日	－	3回	
生育前期 (交配前)	うどんこ病	フルピカフロアブル	9	3000倍	散布	前日	○	4回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	ウララDF	29	2000倍			－	2回	訪花昆虫に対する安全性高い。
	ハダニ類	ダニサラバフロアブル	25A	1000倍			－	2回	
	ウリノメイガ	アファーム乳剤	6	2000倍			－	2回	※発生時に単用散布する。
	ハダニ類	コロマイト乳剤	6	1000倍			－	2回	※発生時に単用散布する。※ミツバチ導入3日前まで
生育後期 (交配後)	うどんこ病 つる枯病 べと病	テーク水和剤 ※2 ※4	3・M3	600倍	散布	7 日前	●	5回	
	斑点細菌病 つる枯病 炭疽病 べと病	ジマンダイセン水和剤 ※2	M3	600倍		7 日前	○	5回	
	うどんこ病 陥没病	トリフミン水和剤 ※3 ※4	3	3000倍		前日	●	5回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤	4A	4000倍		前日	－	3回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	コルト顆粒水和剤	9B	4000倍		前日	－	3回	
ネット発生 盛期	うどんこ病	ケンジャフロアブル	7	1500倍	散布	前日	○	3回	つる枯病にも適用あり
	うどんこ病	カリグリーン	NC	800倍			●	—	
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 ※3 ※4	U6・3	2000倍			●	2回	※幼苗期に使用しない。（濃緑化症状及び生育抑制を生じる場合がある。）
	ウリノメイガ	グレーシア乳剤	30	2000倍			－	2回	コナジラミ類、ハダニ類にも適用あり ※発生時に単用散布する。
ネット発生 後期	つる枯病 べと病	プロポーズ顆粒水和剤 ※1	40・M5	1000倍	散布	3 日前	●	5回	
	コナジラミ類 アザミウマ類	スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍		3 日前	－	2回	
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	20D	1000倍		前日	－	1回	※発生時に単用散布する。
成熟期	アブラムシ類 ウリノメイガ	オリオン水和剤40（劇）	1A	1000倍	散布	前日	－	5回	
	ウリノメイガ	アファーム乳剤	6	2000倍			－	2回	※発生時に単用散布する。
収穫前	※収穫日が予定より早い場合を想定し、余裕をもって薬剤散布を打ち切る。								

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※ 1 ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤は同一成分（TPN）を含むため、総使用回数は5回以内とする。
- ※ 2 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数は5回以内とする。
- ※ 3 トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一成分（トリフルミゾール）を含むため、総使用回数は2回以内とする。
- ※ 4 テーク水和剤、トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一系統（RACコード：3（EBI剤））であり、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
- ※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
- ※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。
- ※ 抵抗性品種（えそ斑点病対策）の導入を図る。また、発病株は早期に抜き取り適切に処分する。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。保護殺菌剤・予防剤加用で効果。
アブローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性があり加用する農薬の薬害が少ない。治療型殺菌剤への加用効果大。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	適用雑草名	RACコード	使用量（散布液量）	使用方法	使用時期	使用回数	注意事項
クレマート乳剤	一年生雑草	3	10a当り200～400mℓ (水量100～150ℓ)	全面土壌散布	定植・マルチ前 (雑草発生前)	1 回	多年生雑草・キク科・ツユクサには効果が劣る。
ザクサ液剤	一年生雑草	10	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫30日前まで (雑草生育期：定植前又は畦間処理)	2 回	散布液が作物へ飛散しないように注意する。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 ねぎ 病害虫防除基準

JA山形おきたま ねぎ振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項	
育苗期 ～生育期	べと病・黒斑病	ダコニール1000 ※1	M5	1000倍	散布	1 4 日前	○	3 回		
育苗期後半 ～定植当日	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ジュリボフロアブル	28・4A	200倍	灌注	育苗期後半 ～定植当日	－	1 回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L タネバエ・ネキリムシ類・ネダニ類にも適用あり 茎葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。	ジュリボフロアブル スタークル顆粒水溶剤 ベストガード粒剤 のいずれかを選択する。
定植前日 ～定植時	アザミウマ類 ハモグリバエ類 タネバエ・ネギコガ	スタークル顆粒水溶剤	4A	50倍	灌注	定植前日 ～定植時	－	1 回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L	
定植時	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ベストガード粒剤	4A	6kg/10a 植溝処理土壌混和		定植時	－	1 回	茎葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。	
	ネキリムシ類	カルホス微粒剤F (劇)	1B	6kg/10a 土壌表面散布土壌混和处理		植付時	－	1 回		
生育期	軟腐病	オリゼメート粒剤	P2	6kg/10a	株元散布	土寄せ時 3 0 日前	○	2 回		
		クプロシールド	M1	1000倍	散布	－	○	－	べと病にも適用あり	
		バリダシン液剤5	U18	500倍		前日	○	2 回	白絹病(株元散布)にも適用あり	
		スターナ水和剤 ※2	31	2000倍		7 日前	○	3 回		
		カセット水和剤 ※2 ※3	31・24	1000倍		1 4 日前	●	2 回		
		カスミンボルドー ※3	24・M1	1000倍			●	2 回		
	白絹病	ユニフォーム粒剤	11・4	9kg/10a	株元土壌混和	土寄せ時 4 5 日前	○	1 回	べと病・さび病にも適用あり	
	べと病	ジマンダイセン水和剤 ※4	M3	600倍	散布	1 4 日前	○	3 回	黒斑病・さび病にも適用あり	
		ヨネボン水和剤	M1	500倍		7 日前	○	4 回	さび病・黒斑病・軟腐病にも適用あり 高温時の使用は葉害の恐れがあるので注意。	
		プロポーズ顆粒水和剤 ※1	40・M5	1000倍		1 4 日前	●	3 回	葉枯病にも適用あり	
		ザンブロDMフロアブル	45・40	1500倍			●	3 回		
		アリエッティ水和剤	P7	800倍		3 日前	●	3 回		
	黒斑病	ロブラール水和剤	2	1000倍	散布	1 4 日前	●	3 回	小菌核腐敗病にも適用あり	
	さび病	テーク水和剤 ※4	3・M3	600倍	散布	1 4 日前	○	3 回	べと病・黒斑病・葉枯病にも適用あり	
		アフェットフロアブル	7	2000倍		前日	○	2 回	黒斑病・小菌核腐敗病・白絹病・葉枯病にも適用あり	
		オンリーワンフロアブル	3	1000倍		1 4 日前	●	3 回	黒斑病にも適用あり	
		サブロール乳剤	3	1000倍		前日	●	5 回		
	べと病・さび病・黒斑病・葉枯病	アミスター20フロアブル	11	2000倍	散布	3 日前	●	4 回	●発生時に使用する。 耐性菌出現防止のため連用は避ける	
	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル (劇)	34	2000倍	散布	3 日前	－	2 回	ネギハモグリバエにも適用あり	
		ブリロッソ粒剤オメガ ※5	28	6kg/10a	株元散布	前日	－	3 回	ハモグリバエ類にも適用あり	
	ネギハモグリバエ ネギアザミウマ	ダントツ粒剤	4A	6kg/10a	株元散布	3 日前	－	4 回	ネダニ類にも適用あり	
		コルト顆粒水和剤	9B	2000倍	散布		－	3 回	アブラムシ類にも適用あり	
	アブラムシ類	アグロスリン乳剤 (劇)	3A	2000倍	散布	7 日前	－	5 回	アザミウマ類・ネギハモグリバエ・ネギコガにも適用あり シロイチモジヨトウ(1000倍)にも適用あり	
	シロイチモジヨトウ	プレオフロアブル	UN	1000倍	散布	3 日前	－	4 回	ネギアザミウマにも適用あり	
		アニキ乳剤	6	1000倍			－	3 回	ネギアザミウマ・ネギコガ・ハモグリバエ類にも適用あり	
		ディアナSC	5	2500倍		前日	－	2 回	アザミウマ類・ネギハモグリバエ・ネギコガにも適用あり	
		プロフレアSC	30	2000倍			－	3 回	ネギコガ・ネギハモグリバエにも適用あり	
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ	グレーシア乳剤	30	2000倍	散布	7 日前	－	2 回	ネギコガにも適用あり	
		ベネビアOD ※5	28	2000倍		前日	－	3 回		
	ネダニ類	トクチオン乳剤	1B	2000倍	株元灌注	7 日前	－	3 回	希釈液を1㎡当たり3ℓ株元灌注する。	

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※1 ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤は同一成分（TPN）を含むため、総使用回数は3回以内とする。
※2 スターナ水和剤、カセット水和剤は同一成分（オキシリニック酸）を含むため、総使用回数は3回以内とする。
※3 カセット水和剤、カスミンボルドーは同一成分（カスガマイシン）を含むため、総使用回数は2回以内とする。
※4 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数は3回以内とする。
※5 ブリロッソ粒剤オメガ、ベネビアODは同一成分（シアントラニリプロール）を含むため、総使用回数は3回以内とする。
※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。
※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を行います。また発生を予測して、適期防除に努めましょう。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
ワイドコート	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り33mℓ	薬剤をムラなく広げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。 少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし固着性に優れ、雨前散布や保護剤散布に。
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性に優れ、治療効果がある殺菌剤や殺虫剤散布に。
ミックスパワー	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り33mℓ	湿展性・浸達性に優れ、均一付着により汚れ少ない。殺菌剤の降雨間散布に。 ※使用倍数3000倍を守る。

除草剤

時 期	薬 剤 名	適用雑草名	RACコード	使用量（散布液量）	使用方法	使用時期	使用 回数	注意事項
定植前	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	9	10a当り200～500mℓ (水量50～100ℓ)	雑草茎葉散布	耕起前又は定植5日前まで (雑草生育期)	3 回	少量散布の散布量(5～50ℓ)/10a
定植後	ゴーゴーサン細粒剤F	一年生雑草	3	4～6kg/10a	全面土壌散布	定植後（雑草発生前） 但し、定植1 0 日後まで	1 回	ツユクサ、キク科には効果が劣る。 同一成分のためどちらか1回のみ使用のこと。
	ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	3	10a当り200～300mℓ (水量70～100ℓ)				
生育期	ザクサ液剤	一年生雑草	10	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)	2 回	作物に飛散しないように注意をする。
	ロロックス	一年生雑草	5	10a当り100～150g (水量70～150ℓ)	畦間土壌散布	定植後（雑草発生前） 但し、収穫3 0 日前まで	1 回	
	ナブ乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	1	10a当り150～200mℓ (水量100ℓ)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫3 0 日前まで	1 回	・イネ科作物には葉害の恐れがあるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに7～10日必要。 ・広葉雑草及びカヤツリグサ、スズメノカタビラに効果がない。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 アスパラガス 病害虫防除基準

JA山形おきたま アスパラガス振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
生育期	茎枯病 斑点病 褐斑病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	前日	○	4回	○茎枯病 病原菌は、被害植物上に形成された柄子殻で越冬し、翌年気温が上昇すると共に胞子を形成し飛散・伝染する。特に収穫後の株養成茎に発生し、降雨が多いと多発する。被害茎葉は集めて焼却し、圃場に残さず処分する。また、罹病茎を刈り取る時は低刈りとする。予防防除の徹底が重要となっており、立茎開始から3～5日間隔で防除を行なう。 ○斑点病 茎や葉に発生し、赤褐色で楕円形の小型病斑が形成され、やがて灰褐色に退色する。病斑が茎や葉を取り囲むとその上部は枯死して落葉する。立茎時期から感染するが、発生が増大するのは8月中旬以降の秋雨時である。 ○褐斑病 病徴は斑点病とほとんど同じで判別が難しい。褐斑病は病徴がすすむと病斑中心部に黒色の粒点が密生する。斑点病と同様に、罹病した落葉は次年度の伝染源となるため、なるべく圃場から除去する。
		アフェットフロアブル	7	2000倍			○	4回	
		パレード20フロアブル	7	2000倍			○	3回	
		コサイド3000	M1	2000倍		—	○	—	
		ロブラール水和剤	2	2000倍			○	5回	
		アミスター20フロアブル	11	2000倍			●	4回	
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11	3000倍			●	3回	
	茎枯病 斑点病	Zボルドー	M1	500倍	散布	—	●	—	※アミスター20フロアブルは薬害の恐れがあるため、高温期の散布を避ける。 ※ラリー水和剤とスコア顆粒水和剤は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
		クプロシールド	M1	1000倍		—	●	—	
	斑点病	ラリー水和剤	3	4000倍	散布	前日	●	2回	
		スコア顆粒水和剤	3	2000倍			●	2回	
	軟腐病	スターナ水和剤	31	2000倍	散布	前日	○	2回	立茎本数を適正にし、通風を良くすることが重要。 雨天が続き、穂先にトロケ症状が観察される場合に散布する。
	ネキリムシ類	ガードベイトA ※1	3A	3kg/10a 株元散布		前日	—	3回	
	ジュウシホシクビナガハムシ	アディオン乳剤 ※1	3A	2000倍	散布	前日	—	3回	アブラムシ類・カメムシ類・ヨトウムシにも適用あり
		スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍			—	3回	アザミウマ類・カメムシ類にも適用あり
		コテツフロアブル（劇）	13	2000倍			—	2回	オオタバコガ・ヨトウムシ・ハスモンヨトウ・ハダニ類にも適用あり
	ハダニ類	コロマイト乳剤	6	1000倍	散布	前日	—	2回	
	ネギアザミウマ	ダントツ水溶剤	4A	2000倍	散布	前日	—	3回	アブラムシ類・カメムシ類・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり
		ウララDF	29	2000倍			—	3回	アブラムシ類にも適用あり
		コルト顆粒水和剤	9B	4000倍			—	3回	カスミカメムシ類にも適用あり
		ハチハチフロアブル（劇）	21A	1000倍			—	2回	アブラムシ類・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり
	アザミウマ類	グレーシア乳剤	30	2000倍	散布	前日	—	2回	ハスモンヨトウ・ハダニ類・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり
		ファインセーブフロアブル（劇）	34	2000倍			—	2回	
		リーフガード顆粒水和剤（劇）	14	1500倍			—	2回	ナメクジ類にも適用あり
		アドマイヤー顆粒水和剤（劇）	4A	5000倍			—	2回	
		ディアナSC	5	2500倍			—	2回	オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり
	カメムシ類	アーデント水和剤	3A	1000倍	散布	前日	—	2回	アブラムシ類・オオタバコガ・ハダニ類にも適用あり
	ハスモンヨトウ	プレオフロアブル	UN	1000倍	散布	前日	—	2回	ネギアザミウマ・オオタバコガ・ヨトウムシにも適用あり
		アフーム乳剤	6	2000倍			—	2回	オオタバコガ・ヨトウムシ・ハダニ類にも適用あり
		フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍			—	2回	オオタバコガ・ヨトウムシにも適用あり
		プレバゾンフロアブル5	28	2000倍			—	3回	
	ナメクジ類	スラゴ	未分類	1g～5g/㎡ 株元に配置		発生時	—	—	カタツムリ類にも適用あり
		ナメククリーン3	未分類	1～3kg/10a 株元散布		前日	—	2回	
収穫 終了後	茎枯病	ベルクート水和剤	M7	1000倍	散布	7日前	○	5回	斑点病・褐斑病にも適用あり
		リゾレックス水和剤	14	500倍		収穫後～茎葉刈取り期まで (収穫14日前)	●	3回	
	茎枯病・斑点病	ICボルドー66D	M1	50倍	散布	収穫終了後	○	—	

展着剤 (○予防効果が期待できる。●予防・治療効果が期待できる。)

展着剤名	適用農薬名	使 用 量	説 明
ワイドコート	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り20mℓ	薬剤をムラなく広げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。雨前散布、予防剤加用で効果。
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。治療型殺菌剤への加用効果大。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	RACコード	使用量（散布液量）	使用時期	使用回数	使用方法／注意事項
準 備	スギナ	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り1500～2000mℓ （水量50～100ℓ）	収穫前日まで （雑草生育期・畦間処理）	2回	雑草茎葉散布
萌芽前	一年生雑草 （ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	トレファノサイド乳剤	3	10a当り200～300mℓ （水量100ℓ）	萌芽前又は収穫打ち切り後 （雑草発生前）	1回	全面土壌散布
	一年生雑草	クレマート乳剤	3	10a当り200～400mℓ （水量100～150ℓ）	萌芽前 （雑草発生前）	1回	全面土壌散布
		ロロックス	5	10a当り150～200g （水量70～150ℓ）	萌芽前 （雑草発生前～発生始期）	1回	全面土壌散布
		ゴーゴーサン細粒剤F	3	10a当り4～6kg	萌芽前 （雑草発生前）	1回	全面土壌散布
		センコル水和剤	5	10a当り100～150g （水量100ℓ）	萌芽前～萌芽始期 または収穫打ち切り後 （雑草発生前～4、5葉期）	1回	雑草茎葉散布又は全面土壌散布 ※作物体が地上に見えたら使用できません。
生育期	一年生イネ科雑草 （スズメノカタビラを除く）	ナブ乳剤	1	10a当り150～200mℓ （水量100～150ℓ）	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 （但し収穫前日まで）	1回	雑草茎葉散布又は全面散布
	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500mℓ （水量100～150ℓ）	収穫前日まで 雑草生育期（萌芽前又は畦間処理）	2回	雑草茎葉散布

※1 ガードベイトA、アディオン乳剤は同一成分（ベルメトリン）を含むため、総使用回数は3回以内とする。
※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 えだまめ 病害虫防除基準

JA山形おきたま えだまめ振興部会

時 期	薬 剤 名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	使用 回数	対象病害虫																		注意事項			
						紫斑病	莢汚損症	灰色かび病・菌核病	赤かび病	べと病	斑点細菌病	茎疫病	アブラムシ類	フタスジヒメハムシ	タネバエ	ダイズサヤタマバエ	ネキリムシ類	コガネムシ類	コガネムシ類幼虫	カメムシ類	ウコンノメイガ	シロイチモジマダラメイガ	ハスモンヨトウ		マメシンクイガ	マメヒメサヤムシガ	オオタバコガ
は種前	クルーザーFS30	4A	塗沫処理 原液6mℓ/乾燥種子1kg	は種前	1回								●	●	●		●										クルーザーMAXXを使用した場合は、クルーザーFS30を使用しない。
	クルーザーMAXX	FRAC：12・4 IRAC：4A	塗沫処理 原液8mℓ/乾燥種子 1 kg	は種前		●						●	●	●		●											種子被害忌避(キジバト・ハト)
は種時	ダイアジノン粒剤5	1B	6kg/10a 作付前：全面土壌混和又は 作条土壌混和 作物生育中：作条処理して 軽く覆土	3 0 日前	5回 ※1										●	※2		●									※1 生育期の使用は4回以内 ※2 ネキリムシ類防除の場合は使用方法を『土壌表面散布』とする。
生育期	ネキリエースK	1B	3kg/10a 土壌表面株元処理	2 1 日前	2回												●										
	ゲッター水和剤 ★	1・10	1500倍	散布	7 日 前	3回	●	●																			
	ランマンフロアブル	21	1000倍		3 日 前	3回					●		●														
	セイビアーフロアブル20	12	1000倍		前 日	3回					●																
	アミスター20フロアブル	11	2000倍		前 日	3回						●															
	フェスティバルC水和剤	40・M1	600倍		前 日	3回						●	●	●													
	クプロシールド	M1	1000倍		—	—						●	●														発病前～発病初期に使用
	スミチオン乳剤	1B	1000倍		散布	2 1 日前	4回								●			●	●	●		●	●				開花期及び開花一週間後にいずれかの薬剤で防除する。 ただし、収穫前日数に注意する。
	トレボン乳剤	3A	1000倍	1 4 日前		2回										●	●	●	●	●	●						
	スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍	7 日 前		2回								●	※		●			●							※フタスジヒメハムシ防除の場合は『3000倍』で使用する。
	マラソン乳剤	1B	2000倍	7 日 前		3回								●				●	※			※					※カメムシ類・マメシンクイガ防除の場合は『1000倍』で使用する。 アザミウマ類・ハダニ類にも適用あり
	ブレバソンフロアブル5	28	4000倍	3 日 前		3回												●		●	●		●				
プロフレアSC	30	2000倍		前 日		3回								●		●					●	●		●			

除草剤

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	RACコード	使用量（散布液量）	使用方法	使用時期	使用回数	注意事項
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り200～500mℓ(水量50～100ℓ)	雑草茎葉散布	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)	3回	
は種直後	一年生雑草	クリアターン細粒剤F	15.3.5	4～5kg/10 a	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回	イネ科/広葉雑草に。
		クリアターン乳剤	15.3.5	10a当り500～800mℓ(水量70～100ℓ)	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)		イネ科/広葉雑草に。
は種後	一年生雑草	プロールプラス乳剤	15.3.5	10a当り400～600mℓ(水量70～150ℓ)	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)		イネ科/広葉雑草に。
		トレファノサイド乳剤	3	10a当り200～300mℓ(水量100ℓ)	全面土壌散布	は種後出芽前	1回	ツユクサ科・カヤツリグサ科・キク科・アブラナ科に効果が無い。
生育期	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500mℓ(水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫14日前まで(雑草生育期播種・定植前又は畦間処理)	3回	イネ科/広葉雑草に。作物にかからないように。
	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	1	10a当り150～200mℓ(水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布又は全面散布	収穫14日前まで(雑草生育期:イネ科雑草3～5葉期)	1回	広葉雑草/カヤツリグサ、スズメノカタビラに効果が無い
		ボルトフロアブル	1	10a当り200～300mℓ(水量100ℓ)	雑草茎葉散布又は全面散布	収穫14日前まで(雑草生育期:イネ科雑草3～8葉期)	1回	広葉雑草/カヤツリグサ、スズメノカタビラに効果が無い

★ 栽培期間をとおして、トップジンM剤（ゲッター水和剤等）とベンレート剤（ニマイバー水和剤等）はいずれか一方のみの使用とする。

※ 「えだまめ」と「大豆」は農薬登録が異なるので、それぞれの登録内容をしっかり確認して使用しましょう。

※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。

※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施します。また発生を予察して適期防除に努めましょう。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 食用菊 病虫害防除基準

JA山形おきたま 食用菊振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
定植時	ネキリムシ類	カルホス微粒剤F (劇)	1B	6kg/10a 土壌表面散布 土壌混和处理		定植時	—	1 回	
	アブラムシ類	スタークル粒剤	4A	1g/株 植穴土壌混和 (10a当り30kgまで)		定植時	—	1 回	マメハモグリバエにも適用あり 2g/株(但し 10a当り30kgまで)
生育期	褐斑病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	3 0 日前	○	4 回	雨よけを設置し、通風を良くし栽植距離は広くする。窒素過多で発生を助長するので適切な施肥を行う。
	白さび病	ラリー乳剤	3	3000倍	散布	1 4 日前	●	2 回	
		ストロビーフロアブル	11	3000倍		3 日前	○	2 回	褐斑病・黒斑病にも適用あり
	うどんこ病	イオウフロアブル	M2	500倍	散布	発病前～発病初期	○	—	高温時の散布は薬害の恐れがあるため注意する。
	灰色かび病	アフエットフロアブル	7	2000倍	散布	7 日前	○	2 回	白さび病・うどんこ病にも適用あり
		セイビアーフロアブル20	12	1000倍		3 日前	○	2 回	
	アブラムシ類	アーデント水和剤	3A	1000倍	散布	1 4 日前	—	1 回	ハスモンヨトウ・ハダニ類・ミカンキイロアザミウマ・ヨトウムシにも適用あり 発生初期に使用する。
		モスピラン顆粒水溶剤 (劇)	4A	2000倍			—	2 回	アザミウマ類にも適用あり
		スタークル顆粒水溶剤	4A	3000倍		7 日前	—	2 回	
		ウララDF	29	4000倍			—	2 回	
		マラソン乳剤	1B	2000倍			—	2 回	
		エコピタ液剤	未分類	100倍		前日	—	—	●単用散布する ハダニ類・うどんこ病にも適用あり
		トランスフォームフロアブル	4C	2000倍		3 日前	—	2 回	
	ミカンキイロアザミウマ	ベストガード粒剤	4A	2g/株	株元散布	前日	—	2 回	アブラムシ類・マメハモグリバエにも適用あり
		カスケード乳剤	15	2000倍	散布	7 日前	—	2 回	マメハモグリバエにも適用あり
		コテツフロアブル (劇)	13	2000倍		3 日前	—	2 回	オオタバコガ・ハダニ類・ヨトウムシ類にも適用あり
		スピノエース顆粒水和剤	5	1万倍			—	2 回	
	アザミウマ類	ディアナSC	5	2500倍	散布	前日	—	2 回	ハモグリバエ類・オオタバコガにも適用あり
		アフーム乳剤	6	2000倍		1 4 日前	—	1 回	
		バイスロイドEW (劇)	3A	3000倍		7 日前	—	2 回	
		アグロスリン乳剤 (劇)	3A	1500倍		3 日前	—	1 回	アブラムシ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシにも適用あり
	ハモグリバエ類	トリガード液剤	17	1000倍	散布	7 日前	—	2 回	
	ハダニ類	スターマイトフロアブル	25A	2000倍	散布	7 日前	—	1 回	
		ダニサラバフロアブル	25A	1000倍		3 日前	—	2 回	
		コロマイト水和剤	6	2000倍		前日	—	1 回	
		アカリタッチ乳剤	UNE	2000倍			—	—	うどんこ病にも適用あり ※高温時の散布は薬害の恐れがあるため注意。
	オオタバコガ	デルフィン顆粒水和剤	11A	1000倍	散布	前日	—	—	発生初期に使用する。
・ハウス開口部には防虫ネットを設置し、ハウス内と周辺の除草を行い、スポット的に害虫が発生した場合は早期に寄生葉を除去する。 ・紫外線カットフィルムを利用する。(ただし紫色品種には使用しない)									

土壌消毒剤 (○予防効果が期待できる、●予防・治療効果が期待できる。)

薬 剤 名	RACコード	対象病害虫	使用量 (散布量)	使用時期／使用回数		使用方法
ガスタード微粒剤 (劇)	8 F	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く) 萎凋病 半身萎凋病 青枯病	30kg/10a	定植2 1 日前まで		1 回 土壌を耕起整地した後、所定量の薬剤を均一に散布して深さ15～25cmに土壌と十分混和する。混和後ビニール等で被覆処理する。7～14日後被覆を除去して少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行う。

除草剤

薬剤名	RACコード	適用雑草名	使 用 量	使用方法／使用回数		使用時期
ゴーゴーサン乳剤	3	一年生雑草	10 a 当り200～400mℓ (水量70～150ℓ)	全面土壌散布		1 回 定植前(雑草発生前)
バスタ液剤	10	一年生雑草	10 a 当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布		2 回 定植前(雑草生育期)、収穫14 日前まで(畦間処理:雑草生育期)

※「食用ぎく」と「きく」は農薬登録が異なるので、それぞれの登録内容をしっかりと確認して使用しましょう。
※ 使用回数は親株から挿し穂を採取した時から収穫終了までの回数です。
※ 病虫害の発生防止には耕種的・物理的防除を実施しましょう。また発生予察を実施して、適期防除に努めましょう。
【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 たらのき 病虫害防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会促成山菜部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
生育期	立枯疫病	ユニフォーム粒剤	11・4	20kg/10a 土壌表面散布		収穫終了後～落葉前 (収穫60日前まで)	○	2回	苗の場合は植え付け後～落葉前 但し、収穫60日前まで。 排水不良地に発生するため、圃場の排水をよくする。
	そうか病	ストロビーフロアブル	11	2000倍	散布	75日前	○	2回	※ユニフォーム粒剤とストロビーフロアブルは同一成分とみなし、連用を避ける。総使用回数は2回以内とする。
	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブソウムシ	スミチオン乳剤	1B	100倍	樹幹散布	3～5月 株養成期	—	2回	
	センノカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤 (劇)	4A	2000倍	散布	45日前	—	3回	
	ハダニ類	コテツフロアブル (劇)	13	2000倍	散布	90日前	—	2回	
伏込時	萌芽促進	ジベレリン液剤	—	50ppm	駒木散布	伏込時	—	1回	使用液量(100～200mℓ/㎡) ※「ジベレリン錠剤」は登録が無いため、使用しないこと。
		ジベレリン粉末	—						

除草剤 (○予防効果が期待できる、●予防・治療効果が期待できる。)

薬 剤 名	RACコード	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法／使用回数		使用時期
ロロックス	5	一年生雑草	10a当り100g (水量70～150ℓ)	畦間土壌散布		2回 中耕・培土後(雑草発生前)
バスタ液剤	10	一年生雑草	10a当り300～500ml (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布		3回 収穫45 日前まで(雑草生育期 植付前又は畦間処理)

※ 使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。
※ 病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施しましょう。また発生予察を実施して適期防除に努めましょう。
※ 「収穫」とは「たらの芽を収穫すること」を指す。
【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 かぼちゃ 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
播種時又は定植時	ネキリムシ類 ケラ	ダイアジノン粒剤5	1B	6kg／10a 全面土壌混和又は作条 土壌混和		は種時又は 定植時	－	2 回	コガネムシ類(幼虫)にも適用あり(収穫21日前まで)
定植時	アブラムシ類	モスピラン粒剤	4A	1g／株 植穴土壌混和		定植時	－	1 回	
生育期	疫病・べと病	ジマンダイセン水和剤	M3	600倍	散布	2 1 日前	○	2 回	炭疽病・つる枯病にも適用あり
		アリエッティ水和剤	P7	400倍		前日	●	3 回	疫病は、排水不良地で発生が多く なるため排水対策を徹底する。
	べと病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	7 日前	○	3 回	うどんこ病にも適用あり
		Zボルドー	M1	500倍		－	●	－	斑点細菌病・褐斑細菌病・黒腐病・黒斑細菌病にも適用あり
	アブラムシ類	スミチオン乳剤	1B	1000倍	散布	1 4 日前	－	3 回	アザミウマ類にも適用あり
		モスピラン顆粒水溶剤（劇）	4A	2000倍		前日	－	2 回	
	ハスモンヨトウ	アグロスリン乳剤（劇）	3A	2000倍	散布	前日	－	5 回	アザミウマ類・アブラムシ類にも適用あり
	うどんこ病	ベルクート水和剤	M7	1000倍	散布	7 日前	○	4 回	
		パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍		前日	●	2 回	
		ストロビーフロアブル	11	3000倍		前日	●	3 回	べと病にも適用あり

除草剤 ダコニール1000 (○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	RACコード	使用量（散布液量）		使用方法	使用 回数	使用時期
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り200～500mℓ（水量50～100ℓ）		雑草茎葉散布	1 回	耕起前まで（雑草生育期）
マルチ前	一年生雑草	クレマート乳剤	3	10a当り200～400mℓ（水量100～150ℓ）		全面土壌散布	1 回	定植・マルチ前（雑草発生前）
生育期	一年生雑草	バスタ液剤	10	10a当り300～500mℓ（水量100～150ℓ）		雑草茎葉散布	2 回	収穫30日前まで （雑草生育期定植前又は畦間処理）

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 なす 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
定植前	半身萎凋病	ガスタード微粒剤（劇）	8F	20～30kg/10a 土壌混和		定植2 1 日前まで	○	1 回	土壌を耕起整地した後、所定量の薬剤を均一に散布して深さ15～25cmに土壌と十分混和する。混和後ビニール等で被覆処理する。被覆しない場合は鎮圧散水してガスの蒸散を防ぐ。被覆後7～14日に被覆を除去し、少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行い、散布後21日以上経てから作付する。
定植時	ネキリムシ類	カルホス粉剤	1B	6kg/10a 土壌表面散布土壌混和处理		植付時	－	2 回	
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	1g/株 植穴処理土壌混和		定植時	－	1 回	茎葉、根に薬剤が直接ふれないように注意する。
生育期	半身萎凋病	ベンレート水和剤 ★	1	500倍	土 壌 かん注	収穫 定植後～ 1 4 日前まで	○	3 回	希釈液を株当り200～300ml株元かん注する。
	褐色腐敗病	ホライズンドライブフロアブル	27・11	2500倍	散布	前日	○	3 回	高畦栽培を行い、排水を図る。 湿度の高い時に発生し易い。 近年、発生が見受けられるので注意する。
		ランマンフロアブル	21	2000倍			○	4 回	
	灰色かび病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	前日	○	4 回	うどんこ病・黒枯病・すすかび病にも適用あり
		ベルクートフロアブル	M7	2000倍			○	3 回	うどんこ病・黒枯病・すすかび病にも適用あり
		ロブラール500アクア	2	1000倍			○	4 回	
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍	散布	前日	●	2 回	
		アミスター20フロアブル	11	2000倍			●	4 回	すすかび病にも適用あり
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	20D	1000倍	散布	前日	－	1 回	
		コテツフロアブル（劇）	13	2000倍			－	4 回	オオタバコガ・チャノホコリダニ・テントウムシダマシ類・ハスモンヨトウ・ミカンキイロアザミウマ・ヨトウムシにも適用あり
	チャノホコリダニ	カネマイトフロアブル	20B	1000倍	散布	前日	－	1 回	ハダニ類にも適用あり
		コロマイト乳剤	6	1500倍			－	2 回	※コロマイト乳剤:水なすには使用しない。(薬害の恐れあり)
		アフーム乳剤	6	2000倍			－	2 回	ハダニ類・ハモグリバエ類・コナジラミ類にも適用あり
	アブラムシ類	ダントツ水溶剤	4A	2000倍	散布	前日	－	2 回	アザミウマ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ハダニ類・ハモグリバエ類・コナジラミ類にも適用あり
		アグロスリン乳剤（劇）	3A	2000倍			－	3 回	コナジラミ類・ハモグリバエ類・カメムシ類にも適用あり
		コルト顆粒水和剤	9B	4000倍			－	5 回	オンシツコナジラミにも適用あり
	オオタバコガ	トルネードエースDF	22A	2000倍	散布	前日	－	3 回	カスミカメムシ類・コナジラミ類にも適用あり
		フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍			－	2 回	ハスモンヨトウにも適用あり
							－	3 回	ハスモンヨトウにも適用あり
	コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	9B	5000倍	散布	前日	－	3 回	アブラムシ類にも適用あり

展着剤 (○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

展着剤名	適用農薬名	使 用 量	説 明
アブローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	RACコード	使用量（散布液量）		使用方法	使用回数	使用時期
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り200～500mℓ(水量50～100ℓ)		雑草茎葉散布	2 回	耕起前まで（雑草生育期）
定植前 マルチ前	一年生雑草	クレマート乳剤	3	10a当り200～400mℓ(水量100～150ℓ)		全面土壌散布	1 回	定植前又は定植・マルチ前（雑草発生前）
生育期	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500mℓ(水量100～150ℓ)		雑草茎葉散布	3 回	収穫前日まで（雑草生育期定植前又は畦間処理）

★栽培期間をとおして、トップジンM剤（トップジンM水和剤等）とベンレート剤（ベンレート水和剤等）はいずれか一方のみの使用とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 キャベツ 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会キャベツ部会

時期	対象病害虫	薬 剤 名	RACコード	使用方法		使用時期 (収穫迄)	効果	使用回数	注意事項		
育苗期	べと病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	14日前	○	2回			
	アオムシ・コナガ アブラムシ類	アグロスリン水和剤（劇）	3A	1000倍	散布	7日前	—	5回	アザミウマ類・タマナギンウワバ・ヨトウムシにも適用あり		
	アオムシ アブラムシ類・コナガ ネギアザミウマ ハイマダラノメイガ ヨトウムシ	ジュリボフロアブル	28・4A	200倍	灌注	育苗期後半 ～定植当日	—	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5～4ℓ) 当たり 0.5ℓ		
定植前	根こぶ病	オラクル顆粒水和剤	21	500倍	灌注	定植前	○	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約3～4L) 当り500ml		
		オラクル粉剤	21	30kg/10a 全面土壌混和			○	2回	粉剤はいずれか1剤 を選択し使用する		
		ネビジン粉剤	36	30kg/10a 全面土壌混和			○	2回			菌核病にも適用あり
生育期	べと病	ジマンダイセン水和剤 ※1	M3	600倍		30日前	○	3回	べと病は降雨が比較的多く、気温が低くなる秋あるいは春に発生が多い。		
		ダコニール1000	M5	1000倍		散布	14日前	○	2回	育苗期に使用した場合は生育期には1回のみの使用とする。	
		リドミルゴールドMZ ※1	M3・4	1000倍		30日前	●	3回			
	べと病・黒腐病 軟腐病	ヨネポン水和剤	M1	500倍	散布	7日前	○	5回	黒腐病は夏から秋に雨が多いときに出やすい病気。		
	黒腐病・軟腐病 黒斑細菌病	カスミンボルドー ※2	24・M1	1000倍	散布	7日前	●	4回	結球期以降は葉に葉害を生じることがあるので使用しない。		
		カセット水和剤 ※2	31・24	1000倍			●	3回			
	株腐病・黒腐病 軟腐病	バリダシン液剤5	U18	800倍	散布	7日前	●	5回			
	株腐病	モンカットフロアブル40	7	2000倍	散布	7日前	●	4回	株腐病は夏の高温多湿時に収穫する作型で多く発生。 結球開始期から予防散布をする。		
		アミスター20フロアブル	11	2000倍			●	4回	菌核病にも適用あり		
	コナガ・アオムシ アブラムシ類	ダントツ水溶剤	4A	2000倍	散布	3日前	—	2回			
	コナガ アオムシ ヨトウムシ	トクチオン乳剤	1B	1000倍	散布	21日前	—	2回	ハスモンヨトウ・ウワバ類・アブラムシ類にも適用あり		収穫前使用時期の長いものから使用し、一剤1回の適期使用に努める
		プレオフロアブル	UN	1000倍		7日前	—	2回	ウワバ類・オオタバコガ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
		トルネードエースDF	22A	2000倍			—	2回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
		トレボン乳剤	3A	1000倍		3日前	—	3回	アブラムシ類にも適用あり		
		フィールドマストフロアブル	4E	4000倍		前日	—	2回	ハスモンヨトウ・ハイマダラノメイガ・ウワバ類にも適用あり		
		ディアナSC	5	2500倍			—	2回	ウワバ類・オオタバコガ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
		プロフレアSC	30	2000倍			—	3回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・オオタバコガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
フェニックス顆粒水和剤		28	2000倍	—			3回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・オオタバコガ・ハスモンヨトウにも適用あり			
プレバソンフロアブル5	28	2000倍	—	3回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・オオタバコガ・ハスモンヨトウにも適用あり						

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZは同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※2 カスミンボルドー、カセット水和剤は同一成分（カスガマイシン）を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予察を実施し、適期防除に努める。

除草剤

時期	対象雑草名	薬 剤 名	RACコード	使用量	使用方法	使用時期／使用回数		注意事項
定植前	一年生雑草	クレマート乳剤	3	10a当り200～400mℓ (水量100～150ℓ)	全面土壌散布	定植前 (雑草発生前)	1回	キク科・ツユクサには効果が劣る。
定植後	一年生雑草	ラッソー乳剤	15	10a当り150～200mℓ (水量100ℓ)	全面土壌散布	定植8日後まで	1回	アカザ科・タデ科などの広葉雑草には効果が劣る。
	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫45日前まで (雑草生育期 定植前 又は畦間処理)	2回	
	一年生イネ科雑草	ナブ乳剤	1	10a当り150～200mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 (収穫14日前まで)	1回	スズメノカタビラを除く。 広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果がない。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和7年度 野菜類に使える主な登録薬剤

JA山形おきたま 野菜振興会

用途	薬剤名		RACコード	対象病害虫等・使用目的	散布時 希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	注意事項
殺菌剤	微生物剤	インプレッションクリア	BM2	うどんこ病・灰色かび病	1000～2000倍	発病前～ 発病初期	—	
		ボトキラー水和剤	BM2	うどんこ病・灰色かび病	1000倍		—	
		タフパール	BM2	うどんこ病	2000～4000倍		—	トマト・ミニトマトは左記に加え灰色かび病・葉かび病にも適用あり
		マスタピース水和剤	NC	軟腐病	1000～2000倍	収穫前日 まで	—	かぼちゃ・ズッキーニは軟腐細菌病で適用あり しょうがは腐敗病で適用あり キャベツは左記に加え黒斑細菌病・黒腐病にも適用あり
		エコショット	BM2	灰色かび病	1000～2000倍		—	
	銅剤	コサイド3000	M1	褐斑細菌病・黒腐病 軟腐病・斑点細菌病	2000倍	—	—	
		ドイツボルドーA	M1	べと病・軟腐病	500～1000倍	—	—	
		クプロシールド	M1	軟腐病・べと病・斑点細菌病・ナメクジ類	1000倍	発病前～ 発病初期	—	ナメクジ類に対する使用時期は、発生前～発生初期
		Zボルドー	M1	べと病・黒腐病・軟腐病 褐斑細菌病・斑点細菌病・黒斑細菌病	500倍	—	—	キャベツは褐斑細菌病に適用なし
	硫黄	イオウフロアブル	IRAC：UN FRAC：M2	うどんこ病	500～1000倍	発病前～ 発病初期	—	すいか・かぼちゃは500倍 いちごは親株床初期500～1000倍、発病前～発病初期2000倍 トマト、ミニトマトは左記に加えトマトサビダニにも400倍で適用あり(発生初期) ねぎ、あさつき、わけぎは左記に加えさび病にも500倍で適用あり
		硫黄粉剤50	IRAC：UN FRAC：M2	うどんこ病	3kg/10a	—	—	ハダニ類にも適用あり
	炭酸水素塩	カリグリーン	NC	うどんこ病・さび病・灰色かび病	800倍	収穫前日 まで	—	
		ジーファイン水和剤	NC・M1	うどんこ病・軟腐病・白さび病	1000倍		—	なすはうどんこ病のみ適用あり
		ハーモメイト水溶剤	NC	灰色かび病・さび病 うどんこ病	800倍 800～1000倍		—	
殺虫剤	B T 剤	トアロー水和剤CT	11A	アオムシ・コナガ	1000～2000倍	発生初期 但し 収穫前日 まで	—	
				ヨトウムシ	500～1000倍		—	
		トアローフロアブルCT	11A	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
				オオタバコガ	500～1000倍		—	
		エスマルクDF	11A	オオタバコガ・ヨトウムシ	1000倍		—	
				アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
		デルフィン顆粒水和剤	11A	アオムシ・ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ オオタバコガ・ウリノメイガ・コナガ	1000倍		—	
		エコマスターBT	11A	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
				オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシ	1000倍		—	
		ゼンターリ顆粒水和剤	11A	アオムシ・コナガ・ヨトウムシ	1000～2000倍		—	はくさいはアオムシ・コナガ・ヨトウムシのみ2000倍で適用あり ウリ科野菜類は左記に加えウリノメイガにも1000倍で適用あり
				オオタバコガ・ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ	1000倍		—	
		フローバックDF	11A	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
	オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシ			1000倍	—			
	サブリーナフロアブル	11A	アオムシ・コナガ・ヨトウムシ	1000倍		—	はくさいはアオムシ・コナガ・ヨトウムシのみ1000倍で適用あり	
			ハスモンヨトウ	500～750倍		—		
			オオタバコガ	500倍		—		
	物理的阻害	オレート液剤	—	アブラムシ類・コナジラミ類	100倍	発生初期～ 収穫前日まで	—	
殺虫殺菌剤		粘着くん液剤	—	うどんこ病	100倍	収穫前日 まで	—	
				アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類			—	
		サンクリスタル乳剤	—	うどんこ病	300倍		—	トマト・ミニトマトは左記に加えトマトサビダニにも適用あり なすは左記に加えチャノホコリダニにも適用あり
				アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類			—	
		アカリタッチ乳剤	—	ハダニ類	1000～3000倍		—	
				うどんこ病	2000倍		—	
		エコピタ液剤	—	アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	100倍		—	
				うどんこ病			—	
		フーモン	—	アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	1000倍		—	殺菌剤・殺虫剤の展着剤として使用する場合：使用量10 mℓ/散布液10ℓ
				うどんこ病			—	
その他		クレフノン	—	銅水和剤による薬害の軽減	100～200倍	—	—	銅水和剤に混用して散布

※薬剤によって薬害発生の恐れがありますので、散布試験をして事前に薬害の有無を確認して薬剤散布をお願いします。

※「とうもろこし」は穀類であるため、「野菜類」で登録された農薬は使用できません。
「とうもろこし」、「未成熟とうもろこし」、「スイートコーン」に登録のある薬剤を使用下さい。

【令和6年12月11日現在の登録内容に基づいて記載しています。】